

# 福岡県北九州市開善寺跡出土のネコ遺存体

沖田 絵麻

## はじめに

開善寺跡は北九州市小倉北区馬借1丁目に所在する。調査報告書(山手2005)によれば、開善寺は禅宗臨済派の寺で、京都妙心寺の末寺であり、建武二年(1335年)に小笠原信濃貞宗が信州伊那伊賀良荘に創立したのが始めで、その後寛永九年(1632年)に明石から小倉に移転、慶応二年(1866年)に長州藩との戦闘により焼失した。開善寺が建てられた小倉城の東曲輪は、町屋や寺などが配置された地区である。

平成15年に北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室によりおこなわれた発掘調査では、17世紀後半～18世紀の118基の墓が調査された。検出された墓には、甕棺墓・木棺墓・石室墓・火葬墓があり、多数の人骨や副葬品が発見された。それらの人骨を、現場での調査ののち土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムに持ち帰り調査した結果、木棺墓の1基から出土した骨が人骨ではなく動物骨であることが明らかになった。当時の動物観をうかがい知る貴重な資料であるため、報告したい。

## 1 資料と分析方法

資料は、2号木棺墓の桶形木棺内から出土した動物遺存体である。地下水の影響を受けていたようで、暗褐色を呈し、保存状態は良好である。ビビアナイト(藍鉄鋼)は析出していない。

クリーニングののち、現生骨格標本との比較により、種と部位を同定する。

## 2 出土した動物

表1に示すように、同定した動物はネコである。ネコは人の手により持ち込まれた家畜であるが、正確な渡来時期はわかっていない。平安時代の文学作品や絵画などに登場するため、この頃には少なくとも一部の人々の間でペットとして飼われていたようである。近世にはもっと普及しており、城下町や屋敷跡の発掘調査においてしばしば出土している。ネズミ駆除や愛玩用に飼われるだけでなく、鷹狩用に飼われていた猛禽類の餌として利用された例も知られる。

表1 出土した動物

脊椎動物門	VERTEBRATA
哺乳綱	Mammalia
ネコ目(食肉目)	Carnivora
ネコ科	Felidae
ネコ	<i>Felis catus</i>

## 3 出土部位と観察所見

出土部位を図1および表2に、計測値を表3に示す。欠落部位があるが、重複する部位がないことから、同一個体と考えられる。下顎骨は、第3

図1 ネコの骨格名称と出土部位

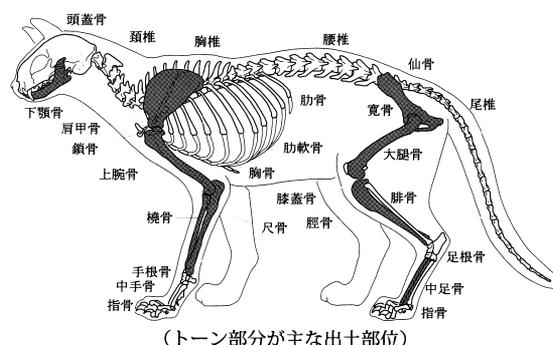


表2 出土した部位

部位	左右	部分	備考
下顎骨	R	下顎枝欠損、P3・P4・M1 植立	摩耗はエナメル質に留まる
頸椎	-	1点	
胸椎	-	1点	
腰椎	-	3点	
肋骨	?	骨体片	
肩甲骨	R	近位部欠損、d:F	
上腕骨	L	完全、p:U/F、d:F	
	R	完全、p:U/F、d:F	
橈骨	L	完全、p:F、d:F	
	R	完全、p:F、d:F	
尺骨	L	完全、p:F、d:F	
	R	完全、p:F、d:F	
寛骨	R	ほぼ完全、腸骨稜・坐骨結節:U/F	
大腿骨	L	完全、p:U/F、d:U/F	
	R	近位端～骨体中位、p:U/F	
脛骨	L	完全、p:U/F、d:F	
	R	完全、p:U/F、d:F	骨体中央前面に擦痕あり
第2中足骨	R	完全、p:F、d:F	
第4中足骨	L	完全、p:F、d:F	

P:小白歯 p:近位端 d:遠位端 F:化骨完了 U/F:骨端線あり(化骨途中)

小白歯・第4小白歯・第1大白歯が植立し、他の歯は見られない。歯の摩耗程度は弱く、エナメル質に留まる。

四肢骨は、山口県萩市の萩城外堀地区出土近世ネコの資料(沖田2006)に比べると小さい。しかし、本資料は成長途上の個体であるため、形態を議論する資料としては適当ではない。年齢は、四肢骨の骨端の骨化状況から、生後6～10ヶ月前後と推定される。いずれの骨にも刃物傷などの人為的な破損痕跡は見られない。

#### 4 考察

本資料は、木棺墓という出土遺構の性格上、人の手で埋葬された可能性がある。残念ながら出土状況を確認する資料に欠けるが、木棺の上半部が大きく破損しており、また骨格に欠落部位がみられることから、後世に攪乱を受けた可能性が高い。人間の遺体に随葬された可能性も否定はできないが、ネコ以外の骨が1点も見

られない現時点では、ネコの墓の可能性が高いと考えている。なお、2号木棺墓以外の人骨が埋葬された墓の多くからは銅銭や陶磁器、煙管、櫛など様々な副葬品が見つかったが、2号木棺墓からは何も出土していない。こうした副葬品の有無も、被葬者の性格の違いを示していると考えられる。

開善寺は小笠原七代の貞宗の菩提所であり、また紫川を挟み小倉城の対岸に位置するという立地からも、比較的裕福な人々が埋葬されたと見られる。副葬品には、古銭や数珠などのほか、木刀や短刀、櫛、将棋の駒、扇子、土製人形など様々な物が見られ、中には金時絵を施した漆塗りの櫛やかんざし、べっ甲製品、銅製の指輪を納めた石製の小箱などがあり(山手2005)、経済的余裕のある人々の墓地であることがうかがえる。今回、こうした階層の人々がネコを飼い、死後も人間同様の扱いをしていた可能性が明らかになった。当時の人々の動物観を知る貴重な資料と言える。

全国的にみると、人間同様に墓地に埋葬される動物にはイヌが多い。本遺跡と同様に、支配者階層

表3 ネコ遺存体計測値

	開善寺2号木棺墓		萩城外堀 BN4066
下顎骨	L		-
id-M1 歯槽後端	35.60		-
C 歯槽-M1 歯槽	27.25		-
P3-M1	20.60		-
体高(M1中央)	10.65		-
体厚(M1中央)	5.65		-
P3(近-遠径)	5.15		-
P3(近-舌径)	2.60		-
P4(近-遠径)	6.85		-
P4(近-舌径)	3.10		-
M1(近-遠径)	8.25		-
M1(近-舌径)	4.40		-
肩甲骨		R	-
関節窩長		14.45	-
関節窩幅		9.40	-
頸部最小幅		13.35	-
上腕骨	L	R	
GL	99.15	-	102.40
Bp	16.30	-	15.10
Dp	19.90	-	18.85
SD	8.55	8.00	8.05
Bd	18.65	18.55	19.20
BT	12.40	12.60	13.70
橈骨	L	R	-
GL	94.80	94.35	-
Bp	8.00	7.80	-
Dp	5.75	5.50	-
SD	7.00	7.40	-
Bd	12.10	12.30	-
Dd	7.25	7.85	-
尺骨	L	R	-
GL	110.85	110.30	-
切痕中央矢状径	6.70	7.10	-
寛骨		R	R
GL		77.40 ±	81.20
LA		10.90	11.90
SH		11.40	11.25
LS			29.70
大腿骨	L	R	L
GLC			116.90
GL	108.60	-	115.95
Bp	20.25	20.15	22.10
DC	8.30	-	9.90
SD	9.90	-	9.85
Bd	18.65	-	19.55
脛骨	L	R	L
GL	111.10	111.00	118.50
Bp	19.50	19.75	19.90
SD	8.35	8.10	7.60
Bd	14.15	14.95	14.75
Dd	9.80	10.00	14.45

四肢骨の計測項目はDriesch(1976)による

ではないが埋葬施設や副葬品に経済的余裕の感じられる人々の墓地である堺環濠都市遺跡調御寺跡（堺市教育委員会 1984）では、イヌが木棺墓に埋葬され土師皿や寛永通宝などの副葬品を伴う。ネコの埋葬例は東京都の汐留遺跡などで知られている（西本ほか 2003 など）。今回の事例も含め、飼ネコも飼イヌと同様の扱いを受けていたことがうかがえる。今回のような比較的裕福な階層の場合はおそらくであろう。本遺跡で発見された桶形木棺は底径 40～55cm の規模であり、実測図を見る限り 2 号木棺もこの範囲に収まるため、人間用の棺をネコにも用いた可能性が高い。

## おわりに

本資料は、近世の小倉城下町に暮らした比較的裕福な階層の人々の、飼ネコに対する扱いをうかがい知る貴重な資料である。このような扱いが富裕層に限られるのか、武士や町民など階層により扱い方に差があるのか、今後考えて行かねばならない問題である。また、小型の埋葬施設で骨が良好に残っていなかった場合に、小児の墓と動物の墓を判別する方法についても検討してゆく必要がある。

## 引用文献

1. Driesch, Angela von den 1976 A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites. Peabody Museum Bulletin 1, Harvard University : 137p.
2. 沖田絵麻 2006 山口県萩市萩城跡（外堀地区）6・7 地区出土の動物遺存体. 「山口県埋蔵文化財センター年報—平成 17 年度— 陶墳」第 19 号 : 67-88.
3. 西本豊弘ほか 2003 汐留遺跡の動物遺体. 「汐留遺跡Ⅲ」東京都埋蔵文化財センター : 214-262.
4. 堺市教育委員会 1984 「堺市文化財調査報告第 20 集 堺環濠都市遺跡発掘調査報告—宿院町東 4 丁 S K T 14 地点・調御寺跡—」.
5. 山手誠治 2005 「開善寺跡」北九州市埋蔵文化財調査報告書第 340 集, (財)北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室.



写真 1 2 号木棺墓出土のネコ遺存体

上段左から 右下顎骨、頸椎、胸椎、腰椎（3 点）

下段左から 右肩甲骨、左右上腕骨、左右橈骨、左右尺骨、右第 2 中足骨、右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左第 4 中足骨

---

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

## 研究紀要

第2号

発行年月日 2007年3月31日  
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム  
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8  
TEL 0837-88-1841・1842  
FAX 0837-88-1843  
印刷 アリフク印刷株式会社  
〒759-5101 山口県下関市豊北町栗野 4896-8  
TEL 0837-85-0311  
FAX 0837-85-0312

---